

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス88		
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和7年3月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和7年3月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子供たちが楽しみに通っていただける多様なイベントを企画している。	毎月、全職員でアイデアを出し合いイベント案を考案し、豊富なイベント案を蓄積している。	実施するイベントに関して、事前準備をしっかりと行い、内容を強化していく。
2	職員の意見等を把握する定期的な面談機会を設けており、業務改善につなげています。	職員が意見を言しやすい環境での個別面談を実施している。	個別面談を実施する機会を増やし、更なる風通しの良い職場環境の強化を図っていく。
3	利用者の年齢や発達状況に合わせた支援計画を計画している。	年齢や発達状況によって同じ活動でも内容を変えて支援を行っている。	発達状況や成長段階を踏まえてより良い支援計画を作成していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	近隣の学校の児童クラブや児童館との交流、地域の他の子どもと活動する機会がありません。	コロナやインフルエンザなどの感染症の対策として、他施設との交流に対して消極的になっている。	今後は地域の取り組みなどの予定を把握し、施設イベントの一つとして地域との交流を検討していく。
2	児童発達支援の利用者が多いため、放課後等デイサービスの利用者の興味のあるイベントや外出が難しいことがある。	イベントの活動時間が決まっている為、年齢に応じた時間設定が難しい。	イベントや外出先には年齢に応じた活動が可能な場所を改めて考え、利用者のニーズに答えられるよう努めていく。
3	学習スペースが支援スペースと同空間の為、クールダウンをするスペースが確保しづらい。	パーティションの使用し仕切っはいるが、誰でもすぐに入ってこれてしまう。	今後はクールダウンが必要な場合は職員間で連携を取り、スペースを確保できるようにしていく。